



Vol.26

さん SUN ひろば

北海道看護協会 札幌第3支部

「特定行為研修修了者の活動の実際～看護専門性の発揮～」

中山 日登美(社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院 看護部長)

小林 和子(社会医療法人北農会 恵み野病院 皮膚・排泄ケア認定看護師)

村瀬 早苗(医療法人春林会 華岡青洲記念病院 看護副部長 クリティカルケア認定看護師)

増田 陽介(医療法人徳洲会 札幌ひがし徳洲会訪問看護ステーション 管理者)

2022年11月5日に札幌第3支部看護師職能委員会主催の看護師職能講演会がオンラインで開催された。札幌禎心会病院の中山日登美先生は、宗谷医療圏をモデルに、特定行為研修修了看護師(以下:特定看護師)が地域・組織のニーズを急性期から在宅医療まで支える存在で、各部署との連携やキャリア支援、広報誌での啓蒙活動により、特定看護師を活かす為の体制を整備し、活動の幅が広がっていることを紹介された。

恵み野病院の小林和子先生は、皮膚・排泄ケア認定看護師として、家庭での褥瘡管理や相談窓口、胃瘻や膀胱瘻のカテーテル管理・交換・指導など患者様への関わりについて話された。

華岡青洲記念病院の村瀬早苗先生は、クリティカルケア認定看護師で、医療者の都合で治療が進まず、回復を妨げている現実を知り、特定看護師となったこと、治療と看護の橋渡しを実践し、院内システムを構築、呼吸ケアを実施していること、患者様参加型多職種カンファレンス等も中心となって実施していることを話された。

札幌ひがし徳洲会訪問看護ステーションの増田陽介先生は、診療看護師として社会的背景や病状を踏まえた調整や介入・治療/ケアの方向性を決める活動や中心静脈カテーテル抜去や動脈穿刺・動脈ルート確保を特定行為として実施していること、できる行為も増え、課題もある中で、病院と在宅、両方で勤務されていることを話された。

医療は細分化され、より専門性を問われる中で、患者の個別性も多様化している現在、患者様のQOLの維持・向上に欠かせない役割を担っている講師の方々の活動が徐々に認知され、他部署との連携、協力が強化されていくことが期待される。

広報委員 福田麻希

感想

特定看護師は少数であり、各施設において体制作りから着手し、他部門との調整等困難も多いようですが、その専門性を発揮するために特定看護師のみなさんは積極的に活動されていました。特定看護師のみなさんが、その知識・技術を施設で提供している活躍を拝聴し、大変感銘を受けました。専門的なスキルを取得し活動することはモチベーションにつながり、みなさんが生き活きと報告されているように感じました。このような報告会は特定看護師の役割を理解する良い機会になり、特定看護師を目指す看護師が増えるのではないかと思います。講師の皆様、札幌第3支部看護師職能委員会の方々、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

広報委員 秋林 美穂

講師の皆さんです。
増田先生は Zoom で参加



アンガーマネジメント

～働きやすい職場づくりのために私ができること～

働き続けられる職場づくり推進委員会

昨年度大変好評だったアンガーマネジメント研修会が2022年12月3日に開催されました。

今年もアンガーマネジメントコンサルタントの小尻美奈先生をお招きし「働きやすい職場づくりのために私ができること」と題して ZOOM によるオンライン開催で研修が行われました。

オンライン研修ならではの、投票やチャット機能を用いていることで受講者と先生との交流が大変盛んであり、また先生のお人柄もあって大変楽しくあっという間に2時間の研修が終わったように感じました。

自分の怒りの事例と向き合いながらの講義であったので、講義中から自分の傾向を知ることができ、今後アンガーマネジメントをするために取り組むポイントが明確になりました。

また価値観が怒りの閾値を上げていたことを知り、各個人が様々な看護観をもち働いている環境の中で衝突が生じるのは必然であったことがわかりました。これから働きやすい職場とするためには研修で学んだ、衝動・思考・行動のコントロールを実践し、上手なリクエストの伝え方を獲得していきたいと思います。また今回の学びを周りにも共有することで、お互いが尊重し合える職場づくりに繋がると感じました。

小尻先生、そして主催者である働き続けられる職場推進委員会の皆さまお疲れ様でした。

広報委員 高橋香織里

医療安全交流会(第1回)

「事故の構造に基づく分析手法 ImSAFER」

医療安全特別委員会主催

令和4年11月19日(土) ホテルエミシア札幌で、北海道看護協会札幌第3支部主催 医療安全特別委員会研修会が、テーマ「事故の構造に基づく分析手法 ImSAFER」を用いて医療安全管理者・医療安全委員として必要な知識を習得すること、人間の行動モデルに基づくヒューマンエラー事象分析を理解することを目的とし、市立千歳市民病院看護部次長・ImSAFER 研究会公認インストラクター吉川江利子先生を講師にお迎えして参加者41名にて実施された。

講義は、ImSAFER 分析やヒューマンエラー発生メカニズムについて説明された後、仮想事例を用いて、本来ならグループワークで実習するところだが、新型コロナウイルス感染対策のため個人実習形式で、1.事象関連図作成、2.問題点抽出、3.背後要因探索、4.対策案列举、5.対策決定、6.対策実施、7.対策評価を各自で行ない、各分析、対策、実施、評価発表を行なった。

感想

ヒューマンエラーは起こりうる事として、チームや組織全体の在り方を改善しなければ、事故は防止できません。問題点抽出から「なぜ」「なぜ」分析をしていく事で論理的に考えることや、人間はどんな時に間違うかを知り、どうしておけば間違えないで済むのか分かるなどを学び、事例分析とインシデントレポートの重要性を再確認しました。また、患者の安全を最優先に考え、職場の実態から、セーフティマネジメントを問い続け、改善を図ることが大切であることもわかりました。

講師の吉川江利子先生、主催された医療安全特別委員の皆様、本当にお疲れ様でした。

札幌第3支部 広報委員 金子 雅隆



札幌第3支部 看護研究発表会

教育委員会主催

2022年12月10日（土）北海道看護協会札幌第3支部看護研究発表会がオンラインで開催されました。

コロナ禍における緩和ケア、身体拘束やDNARなど看護ケアで抱えているジレンマ、クラスター発生からの課題、治療や術前後管理に関する看護介入など7演題の発表がありました。

新型コロナウイルス感染収束の見通しが立たず、感染対策など制限が強いられる中であっても「患者・家族に寄り添ったケアを提供したい」、「患者の苦痛を最小限にできる看護を実践したい」など、より良い看護ケアの実践に向けた取り組みで、発表会場とオンライン参加者で質疑応答を通して意見交換や情報共有することができました。

昨年度からオンライン開催となった看護研究発表会ですが、オンラインでの発表も既に定着した様子がかげえ、どの施設もわかりやすく発表をまとめられていました。

日々、緊張感のある状況下で気持ちに余裕が持てず、後ろ向きの考えになってしまうこともありますが、患者さんの満足度が高まる看護の提供は、看護師の満足度やモチベーションの向上にもつながると感じるとともに発表内容からの学びを活かして、今後の看護実践に取り組んでいきたいと思いました。

発表に参加された皆様、企画運営された委員の皆様お疲れ様でした。

広報委員 佐々木久美子・秋林美穂

